

2025 年 10 月 5 日

公益社団法人日本分析化学会
正会員 教育会員 維持会員代表者 各位

公益社団法人日本分析化学会
役員等候補者選考委員会

代議員候補推薦ならびに代議員としての立候補のお願い

公益社団法人日本分析化学会定款第 14 条および公益社団法人日本分析化学会代議員選挙規則に基づき、2026 年度および 2027 年度の代議員候補（任期 2 年）の推薦のご案内および立候補受付のお知らせをいたします。下記の定款ならびに代議員選挙規則（各抜粋）をご覧ください。代議員候補者のご推薦（支部宛）または立候補（役員等候補者選考委員会宛）を奮ってお願いいたします。

ご推薦、または立候補いただいた方々のお名前は、機関誌「ぶんせき」1 月号にて会員に通知し、正会員（名誉会員、永年会員、シニア会員を含む）、教育会員、維持会員代表者による投票を依頼します。

- 1) 代議員候補者の推薦方法：所属支部の正会員、教育会員、維持会員代表者の中から代議員として適当と思われる方（複数可）を **2025 年 11 月 5 日（水）までに支部長宛**に書面をもって推薦してください。
- 2) 代議員としての立候補方法：**2025 年 11 月 5 日（水）までに役員等候補者選考委員長宛**に書面をもって届け出てください。

公益社団法人日本分析化学会定款（抜粋）

- 第 14 条 学会の社員は、正会員、教育会員および維持会員の中から選出された 90 名以上 130 名以内の代議員をもって「一般法人法」の社員とする。
- 2 代議員を選出するため、正会員、教育会員および維持会員による代議員選挙を行う。代議員選挙を行うために必要な細則は理事会において別に定める。
 - 3 代議員は、正会員、教育会員および維持会員の中から選ばれることを要する。正会員、教育会員および維持会員は、前項の代議員選挙に立候補することができる。
 - 4 第 2 項の議員選挙において、正会員、教育会員および維持会員は他の正会員、教育会員および維持会員と等しく代議員を選挙する権利を有する。理事または理事会は、代議員を選出することはできない。
 - 5 第 2 項の代議員選挙は、2 年に 1 度、1 月に実施することとし、代議員の任期は、選任の 2 年後に実施される代議員選挙終了の時までとする。（以下中略）
 - 11 会員の資格を喪失した場合には、代議員の資格を喪失する。

公益社団法人日本分析化学会代議員選挙規則（抜粋）

（代議員選挙）

- 第 3 条 代議員は、全有権者による投票により選出する。
- 2 学会細則 10 条に定める、理事及び理事会から独立した役員等候補者選考委員会（以下、選考委員会と略記する）が代議員選挙を管理し、選挙が行なわれる年度の 11 月 30 日までに代議員候補者を募り、翌年 1 月発行の機関誌により候補者を有権者に通知し、2 月の理事会以前に選挙を実施する。

（代議員の立候補および支部による推薦）

- 第 4 条 有権者のうち、代議員に立候補しようとする者は、自薦または他の有権者の推薦により、選考委員会に、その定める締切日までに届け出る。
- 2 支部は、支部所属の有権者の中から候補者を推薦できるものとする。支部は推薦をするにあたっては、広く支部所属の有権者に推薦希望の有無を募らなければならない。

お知らせ

- 3 役員は候補者になることはできない。ただし、当年度の役員で当年度限りで退任する者は候補者となることができる。
- 4 理事を兼ねた支部長・副支部長は候補者を推薦することができない。その場合は理事でない副支部長が推薦を行う。

(代議員選挙の方法)

- 第5条 選考委員会是有権者に対して機関誌広告により代議員選挙を案内し、立候補者を募集する。同時に各支部にも代議員選挙を案内し、推薦を要請する。
- 2 各支部の推薦候補者数は総数100名とし、当該支部に所属する年度初めの有権者の比率を勘案のうえ、選挙の都度理事会が推薦割当人数を決定し、選考委員会に通知する。
 - 3 選考委員会は支部推薦候補者を含むすべての候補者と投票方法・投票期限を機関誌広告により全有権者に周知させる。
 - 4 支部推薦によって選出された代議員が、その選出された支部から別の支部に所属を変更した場合でも、支部による推薦は有効とする。

立 候 補 届 出 先

役員等候補者選考委員会

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2-304 (公社)日本分析化学会内

推 薦 届 出 先

役員等候補者選考委員会 同上

北海道支部 〒060-8628 北海道札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学大学院工学研究院内

東北支部 〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-11-0604 東北大学大学院工学研究科内

関東支部 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2-304 (公社)日本分析化学会内

中部支部 〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須1-35-18 一光大須ビル7F (公財)中部科学技術センター内

近畿支部 〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-8-4 (一財)大阪科学技術センター内

中国四国支部 〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町2-1 徳島大学大学院社会産業理工学研究部

九州支部 〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744 九州大学大学院農学研究院

[補 足] 新法人下における代議員については、代議員が法律上の社員となることのできる下記の5要件を満たしていなければなりません。これらに留意して作成された学会定款ならびに代議員選挙規則により適正に選出されることが求められています。

[5要件] ①「社員」(代議員)を選出するための制度の骨格が定款で定められていること、②各会員について「社員」を選出するための選挙(代議員選挙)で等しく選挙権および被選挙権が保障されていること、③「社員」(代議員)を選出するための選挙が理事および理事会から独立して行われていること、④選挙された「社員」(代議員)が責任追及の訴え、社員総会決議取消の訴えなど法律上認められた各種訴権を行使中の場合には、その間、当該社員(代議員)の任期が終了しないこととしていること、⑤会員に「社員」と同等の情報開示請求権等を付与すること。

以 上

第 38 回新潟地区部会研究発表会

—プログラム—

主催 (公社)日本分析化学会関東支部・同新潟地区部会
 期日 2025 年 10 月 31 日 (金) 13 時から
 会場 新潟大学五十嵐キャンパス 物質生産棟 161 演習室,
 1F 展示スペース〔新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番
 地, 電話: 025-262-7323〕

参加費 無料

プログラム

13.00~13.05

開会の辞 佐藤敬一 新潟地区部会長 (新潟大学)
 支部長挨拶 菅原一晴 関東支部長 (前橋工科大学)

13.05~13.50

特別講演 (座長 新潟地区部会長 佐藤敬一)
 ペプチドや DNA を用いたタンパク質と細胞のセンシング
 (前橋工科大学) ○菅原一晴

14.00~14.30

受賞講演 (座長 新潟大学 韓 智海)
 ホルマリン固定パラフィン包埋検体を対象とした口腔細菌
 叢解析の可能性
 (日本歯科大学) ○佐野拓人

14.30~16.00

ポスターセッション

16.10~16.55

一般講演 (座長 新潟大学 則末和宏)

16.10~16.25

講演 1 オリゴマー状アミロイド β の新規スカベンジャー
 受容体活性評価法の開発
 (新潟薬科大学) ○川原浩一

16.25~16.40

講演 2 コアシェルナノ薄膜を用いるマイクロメートル
 オーダーの銅微粒子の高解像度検出
 (長岡技科大) ○船木美波, 中村雄大, 高橋由紀子

16.40~16.55

講演 3 水試料中のアセチルアセトン定量法の検討
 ((一財)上越環境科学センター) ○渡邊幸久

16.55~

表彰式

閉会挨拶 佐藤敬一 新潟地区部会長 (新潟大学)

18.00~ 懇親会

発表会終了後に開催予定です。参加規模を把握するため、
 事前に以下のフォームより参加申込をお願いいたします。

懇親会参加申込フォーム

<https://forms.gle/EBnSQgk57gJX8C6v6>

場所: 新潟駅付近

参加費: 一般 6,000 円, 学生 4,000 円

*金額は目安で変更の可能性がございます。

照会先 〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番
 地 新潟大学理学部 韓 智海〔電話: 025-262-7323,
 E-mail: jhhan@chem.sc.niigata-u.ac.jp〕

2025 年北海道地区化学教育研究協議会

主催 日本分析化学会北海道支部, 日本化学会北海道支部,
 日本化学会教育・普及部門
 後援 北海道教育委員会, 札幌市教育委員会, 北海道高等学
 校長協会, 北海道小学校理科研究会, 北海道中学校理
 科教育研究会, 北海道高等学校理科研究会, 北海道教

育大学 (依頼予定含む)

会期 2025 年 11 月 15 日 (土) 10 時~16 時 30 分

会場 北海道教育大学札幌駅前サテライト〔北海道札幌市中央
 区北 5 条西 5 丁目 7 sapporo55 4 階〕での対面形式およ
 び Zoom によるハイブリッド開催

対象 小学校から大学までの教員, 化学教育に関心のある大学
 (院) 生

内容

「教員養成の現場から見る小中高化学分野の系統性と求めら
 れる資質」(宮城教育大学) 猿渡英之先生

提言: 「理科 (化学) 教育における小・中・高・大学での取
 り組み」を 4 件ほど予定 (提言 20 分, 質疑応答 5 分程度)
 自由討論: 「小・中・高・大学での研究実践と課題に関する
 討論」(1 時間程度)

参加費 無料

懇親会費 (希望者) 4,000 円 (五修堂 札幌市中央区南 1 条
 東 2 丁目)

参加申込方法 Google フォームが電子メールで申し込みくだ
 さい。名簿作成の関係で 10 月 27 日 (月) 締切としますが,
 協議会につきましては「当日参加」も可能です。

Google フォーム

<https://forms.gle/daCP7aCv2b5G1Pgo8>

参加申込締切 10 月 27 日 (月)

連絡先 〒060-8628 北海道札幌市北区北 13 条西 8 丁目 北
 海道大学大学院工学研究院材料科学部門 坂入正敏〔電話:
 011-706-7111, E-mail: msakairi@eng.hokudai.ac.jp〕

第 30 回高分子分析討論会

(高分子の分析及びキャラクタリゼーション)
 ~10 年先を見据えた高分子分析を考える~

—参加募集—

主催 (公社)日本分析化学会高分子分析研究懇談会

協賛 (公社)日本化学会, (公社)高分子学会ほか

期日 2025 年 11 月 19 日 (水)・20 日 (木)

会場 明治大学駿河台キャンパス〔東京都千代田区神田駿河台
 1-1, 交通: JR「御茶ノ水」駅より徒歩約 3 分〕

主題 高分子分析・特性解析全般に関する討論です。高分子分
 析は物性発現機構を解明し、構造設計の指針を得る基盤であり、
 その重要性への認識は高まっています。高分子分析・
 キャラクタリゼーションを対象とした本討論会の内容は、化
 学的手法, 分光学的手法, 各種クロマトグラフ法, 熱分析法
 などによる組成, 分子構造, 高次構造, 構造と物性の相関,
 物性発現機構, 重合機構等の解析に関する基本原理, 手法開
 発, 解析実例などに及びます。

内容 一般参加者によるショートプレゼンおよびポスター発表
 に加えて, 協賛企業によるテクニカルレビュー, 特別講演 2
 件を予定しております。さらに, 本年は第 30 回という節目
 の年にあたることから, 記念イベントの企画も予定しており
 ます。

討論会プログラム

第 1 日 (11 月 19 日)

開会挨拶 (9.30~9.40)

テクニカルレビュー I (企業講演 I 9.40~9.50)

ポスター講演 I (9.50~11.00)

ポスター発表 I (11.05~12.35)

休憩

特別講演 I (13.35~14.35)

「蛍光指紋分析を活用したプラスチックの再生材含有率
 推定技術」八木大介先生 (㈱日立製作所)

※冒頭に, 第 30 回記念企画の主旨説明があります (木田

拓充・滋賀県立大)

テクニカルレビューⅡ (企業講演Ⅱ 14.35~14.45)

ポスター講演Ⅱ (14.45~15.55)

ポスター発表Ⅱ (16.00~17.30)

懇親会、ポスター賞授与 (18.00~20.00)

第2日 (11月20日)

ポスター講演Ⅲ (9.00~10.10)

ポスター発表Ⅲ (10.15~11.45)

休憩

ポスター講演Ⅳ (12.45~13.55)

ポスター発表Ⅳ (14.00~15.30)

特別講演Ⅱ (15.50~16.50)

「高分子の関係する接着」西野 孝先生 (神戸大院)

ポスター賞授与、閉会挨拶 (16.50~17.10)

参加費 (税込)

事前登録 (10月28日まで): 一般 10,000 円, 学生 2,000 円

通常登録 (10月29日~11月18日): 一般 14,000 円, 学生 3,000 円

懇親会 (11月18日まで): 4,000 円

参加登録締切 11月18日 (火)

注) この日までに参加登録、および参加費と懇親会費の支払いが完了していない場合は参加できませんのでご注意ください。なお、入金された費用については参加の有無に関わらず返金できませんので、ご了承ください。

参加登録方法 高分子分析研究懇談会のホームページ (HP) からお申し込みください。申し込みには HP 内にて MY PAGE の作成が必要です (非会員の方も作成できます。作成方法は HP に掲載しています)。

支払方法 参加登録後、下記の口座にお振り込みください。

金融機関: りそな銀行五反田支店

口座番号: (普通) 1330829

口座名義: (公社) 日本分析化学会高分子分析討論会

注) 支払い締切 11月18日 (火)

注) 振込手数料はご負担ください。

注) 振込名を指定できる場合は、「参加者番号下 4 桁 + 氏名」をお願いいたします。参加者番号は参加登録時に付与されます。

注) 参加者番号と氏名を入力ができない場合や複数人数を同時に振り込む場合は、お振込み手続きが完了しましたら、その旨と入金予定日を下記までご連絡ください。

Forms リンク

<https://forms.office.com/r/hbBJ9Hjr62>

メール (参加費関連のお急ぎの問い合わせ)

touon-kaikei@pacd.jp

問合せ先 〒464-8603 愛知県名古屋千種区不老町 名古屋大学工学部 7 号館 (EI 館) 7 階 713 室 石田崇人 [電話: 052-789-4202 (内線: 4202), E-mail: pacd-touon@pacd.jp]

本学会ホームページ左側メニュー「本学会に関するお問い合わせ」より「高分子分析討論会」を選択してご質問をお送りください

ポスター講演および発表 I

I-1 赤外スペクトルを用いたポリウレタンの機械的特性予測に関するデータ解析の最適化検討 (コマツ, 阪電通大工) ○影井悠人, 馬上生, 加藤貴則, 秋元治人, 森田成昭

I-2 高分解能 Orbitrap 質量分析計の MS/MS モードを用いた直接試料導入法による共重合オリゴマー配列解析の基礎検討 (サーモフィッシャーサイエンティフィック) ○秦一博

I-3 数値解析を応用した新規な NMR 構造解析へのアプローチ (ダイセル) ○川原寛弘, 岩山将士, 西村めぐみ

I-4 時間依存赤外分光および二次元相関分光法による PMEAA へのアルコール水溶液吸着過程の解析 (阪電通大

工) ○知念優太, 森田成昭

I-5 化学材料におけるコーティング剤および表面に残存する化合物への分析アプローチ~LC/HRMS を活用した網羅的分析と DESI/HRMS を活用した表面分析~ (日本ウォーターズ) ○小西泰二, 倉橋聡実, 江崎達哉

I-6 複合劣化促進解析システムの製品化開発とポリスチレンを用いた妥当性評価 (島津製作所, 島津テクニカルサーチ, 大日本塗料, 群馬大院理工) ○長谷川雪憲, 北村顕一, 松田恵介, 加藤裕樹, 末次晴美, 小田竜太郎, 黒田真一

I-7 近接コロナ放電イオン化 MS 法による温度依存 MS スペクトルライブラリーと検索エンジンの構築に向けた開発研究 (CELESTIA SPECTRA, バイオクロマト, データオフィスホウノキ) ○中谷善昌, 山下藍, 島田治男, 朴木野理子

I-8 ナノサンプリング技術を用いたスマートフォンディスプレイ分析法の構築 (DIC) ○塚本彩花, 大坪恵子

I-9 様々な液体クロマトグラフィー手法を用いたマクロモノマー共重合体の一次構造解析 (三菱ケミカル) ○行政嘉子, 百瀬陽

I-10 FTIR を用いたマイクロプラスチック半自動分析装置の開発 (ケミカルアナリシス) ○奈良明司, 澤田博己

I-11 Py-GC/NICI-MS によるポリテトラフルオロエチレン熱分解生成物のインライン分析 (東北大院環, 東北大院工, アジレント・テクノロジー, フロンティア・ラボ) ○藤原一貴, 熊谷将吾, Borjigin Siqingaowa, Phanthong Patchiya, 齋藤優子, 中村貞夫, 渡辺壺, 寺前紀夫, 渡辺忠一, 吉岡敏明

I-12 毛髪の水分及び VOC 吸脱着特性~ブリーチ処理の影響~ (神奈川大理, ウテナ) ○松村雄大, 柚木勇人, 藤ヶ崎礼夏, 影島一己, 西本右子

I-13 ¹H-NMR スペクトルの多変量解析を用いたスチレン/ジアクリレートゲルの構造解析 (徳島大院理工, 徳島大データ駆動研究クラスター, 徳島大 AI 教育) ○玉越麗奈, 西村仁志, 川谷諒, 鳥井浩平, 吉田健, 水口仁志, 平野朋広

I-14 LPGC-MS/MS システムによる人工芝チップ中の POPs 分析方法の検討 (内藤環境管理, アジレント・テクノロジー, サッカードットコム, 埼玉大理工) ○加藤吉紀, 金井佑生, 高桑裕史, 松永栄一, 藤野毅

I-15 新技術顕微 IR 法 (O-PTIR) を用いた機能性材料の紫外線劣化に関する検証 (日本サーマル・コンサルティング) ○小林華栄

I-16 GCxGC-TOFMS と機械学習を組み合わせた熱分解オイルの構造解析 (日本電子, 東北大院環, 東北大院工) ○福留隆夫, 加藤なな子, 佐藤貴弥, 生方正章, 熊谷将吾, 藤原一貴, 吉岡敏明

I-17 重水素化ラベル法を用いた可逆的結合をもつ高分子の界面拡散評価 (阪大院理, 阪大 FRC, 阪大 OTRI) ○山岡賢司, 小笠伊織, 高島義徳

I-18 SEC 分取と高精度 MALDI-TOFMS の連携による分子量 10 万までの合成高分子末端基解析の試み (日本電子, 東ソー分析センター, エス・ティ・ジャパン) ○佐藤貴弥, 佐藤崇文, 生田久美子, 松岡優子, 榎本愛子, 平井貴康, 香川信之, 杉本哲也, 小林恒夫

I-19 含水ゲル中の揮発速度測定による水分の保持性評価 (DIC) ○志村和樹, 石山正登, 仲村仁浩

I-20 キャピラリー GC 分析における炭素数約 14 以上の異常ピークに関する基礎的検討 (フロンティア・ラボ, 東北大, 中部大) ○肖開提バリザ, 渡辺壺, 寺前紀夫, 石田康行, 渡辺忠一

I-21 廉価な小型近赤外分光器と AIST アプリ「SpectroFit」を使ったプラスチック中のポリマー含有率の *in-situ* 分析

- (産総研) ○新澤英之, 山根祥吾, 金山直樹
- I-22 未知化合物に対する高分解能マスマススペクトル解析技術の検討 (AGC) ○原田啓史, 石塚圭
- I-23 アクリル樹脂のケミカルリサイクル過程における反応生成物解析と反応機構の解明 (名工大院工, 東農工大院工, 三菱ケミカル) ○羽山亮舜, Isa Guducu, 飯國良規, 北川慎也, 倉田明咲, 松沢佑紀, 津川裕司, 兼森紘一, 川島英久, 漆原紅, 西山卓司, 近藤洋輔, 百瀬陽
- I-24 漆液に含まれるタンパク質のアミノ酸配列調査 (明大院理工, 明大理工) ○篠原歩海, 本多貴之
- I-25 アクリル系粘着剤/ステンレス接合体の粘着力に及ぼす界面偏析構造の解析 (豊田中研) ○八木祐介, 岩井美奈, 北住幸介, 光岡拓哉, 安孫子勝寿
- I-26 ピンポイント瞬間熱脱離-近接コロナ放電イオン化質量分析法によるリサイクル材中添加剤の簡易迅速分析法の開発 (産総研機能化学, 産総研サーキュラーテクノロジーRC, バイオクロマト) ○中村清香, 武仲能子, 山下藍, 島田治男, 花岡寿明, 伊藤祥太郎, 渡邊宏臣, 佐藤浩昭
- ポスター講演および発表 II**
- II-1 水中微粒子捕集装置の開発と熱分解 GC/MS を用いた性能評価 (1) 金属製捕集カップの開発 (フロンティア・ラボ, 東北大, 中部大) ○安達甲志, 丹羽誠, 渡辺壺, 寺前紀夫, 石田康行, 渡辺忠一
- II-2 マテリアルリサイクル PP に対する PE の影響と機械学習による物性予測 (矢崎総業, 産総研) ○北田幸男, 海野俊, 遠峰安希, 長谷朝博, 藤本真司, 渡邊宏臣, 稲葉達郎
- II-3 LA-DBDI-MS を用いた有機材料評価技術の基礎検討 (京セラ, 西進商事) ○金田恭介, 山下真弘, 中西将太, 中島豊治
- II-4 プラスチック材料の耐薬品性試験結果と劣化メカニズム (荏原製作所) ○中村由美子, 近隼也, 相場健
- II-5 GC-QMS を用いた熱分解オイルの迅速定性・定量法の検討 (日本電子, 東北大院環, 東北大院工) ○加藤なな子, 福留隆夫, 佐藤貴弥, 生方正章, 熊谷将吾, 藤原一貴, 吉岡敏明
- II-6 樹脂架橋に用いられる Ti 錯体の反応性に関する基礎検討 (DIC) ○道本優, 鈴木真也, 田畑美弥子
- II-7 Py-GC/NICI-MS を用いた TBBPA 含有ポリスチレン熱分解生成物のインライン分析 (東北大院環, 東北大院工, 東北大院理, アジレント・テクノロジー, フロンティア・ラボ) ○赤池佳緒梨, 熊谷将吾, 中村貞夫, Borjigiu Siqingaowa, Phanthong Patchiya, 吉岡敏明, 齋藤優子, 渡辺壺, 寺前紀夫, 渡辺忠一
- II-8 μ CT 3D 解析を用いた接着剤界面の可視化と剥離強度の考察 (レゾナック) ○召田こゆき, 平林宏一, 海野晶浩
- II-9 高分子材料中未知成分の効率的な定性を目的とした LC/QTOF 解析法の検討 (アジレント・テクノロジー) ○野上知花
- II-10 紫外線硬化材料の包括的分析と解析①~複数分析手法を組み合わせたマルチモーダル解析~ (池田理化, 日本ウォーターズ, パーキンエルマー, プルカー・ジャパン, ネット・ジャパン, トヨタ自動車) ○加藤栄治, 倉橋聡実, 江崎達哉, 新居田恭弘, 足立真理子, 神津知己, 中山悠, 塚本修, 佐伯一帆, 箕輪直子
- II-11 発生ガス分析-質量分析法と二次元相関解析を組み合わせた樹脂中の添加剤分析 (産総研) ○山根祥吾, 鈴木康正, 新澤英之
- II-12 ピンポイント瞬間熱脱離法によるフィルム表面の異物分析 (バイオクロマト) ○山下藍, 西口隆夫, 島田治男
- II-13 リアルタイム計測への応用を見据えた多量スペクトルデータ処理技術の検討 (日東分析センター) ○古晒大純, 山本真志, 近藤祐一

- II-14 自動フィルタ交換型エアロゾルサンブラの開発と大気中マイクロプラスチックの熱分解 GC/MS 分析 (フロンティア・ラボ, 東北大, 紀本電子工業) ○丹羽誠, 冨開提パリザ, 渡辺壺, 寺前紀夫, 渡辺忠一, 村田周司, 秋田凌佑, 紀本岳志
- II-15 ポリカーボネートハードコート板の耐候劣化における表面物性評価の試み (広島県総研, レニアス) ○小島洋治, 菅坂義和, 岩井和史
- II-16 酸素阻害が引き起こす UV 硬化樹脂表面の偏析現象の解析 (豊田中研) ○山田祐也, 加藤雄一, 青木良文, 光岡拓哉, 安孫子勝寿
- II-17 MALDI-TOF MS を用いたテトラエトキシシラン重合物の分析 (プルカー・ジャパン, ニコン) ○工藤寿治, 武政千晶, 佐藤至
- II-18 アルミ合金表面の赤色異物解析: 含塩素高分子の特定 (日本発条) ○吉田彦彦, 白石透
- II-19 セルロース系ポリマーの劣化解析—エチルセルロースとメチルセルロースの比較— (神奈川大理, 神奈川大総理研) ○阿久津芳顕, 古垣将, 大石不二夫, 西本右子
- II-20 難溶性高分子 PPS (ポリフェニレンスルフィド) への NMR 法の適用 (クレハ, 産総研) ○大道弘明, 古田周彬, 佐藤剛, 細田友則, 齋藤靖子, 引間悠太, 榊原圭太
- II-21 Poly (methyl vinyl ketone) への分子取着過程の時間依存赤外分光分析 (阪電通大工) ○笹嶋昂輝, 森田成昭
- II-22 紫外線硬化材料の包括的分析と解析②~熱分解 APGC/HRMS を活用した衝撃強度への影響因子の推定および構造解析~ (日本ウォーターズ, パーキンエルマー, プルカー・ジャパン, ネット・ジャパン, トヨタ自動車, 池田理化) ○倉橋聡実, 江崎達哉, 新居田恭弘, 足立真理子, 神津知己, 中山悠, 塚本修, 佐伯一帆, 箕輪直子
- II-23 GPEC を用いた酢酸セルロースの置換度測定技術の構築 (ダイセル) ○山本朱莉, 京極崇之, 飯尾淳平
- II-24 2 段階反応熱分解 GC による縮合系高分子の構造解析 (東レリサーチセンター) ○田口嘉彦, 秋山毅, 日下田成, 松田景子
- II-25 動画画像解析法によるリサイクルプラスチックに含まれる微小異物の評価 (島津製作所) ○前田裕貴, 本間正裕, 尾野公靖, 丸山かれん, 顔旭, 宮崎然
- II-26 マイクロマニピュレーターを用いた顕微 IR 分析のためのマイクロサンプリング (マイクロサポート) ○大西晃宏

ポスター講演および発表 III

- III-1 多元系共重合ポリマーの予測マスマススペクトル生成方法とケンドリック・マスディフェクト法による可視化の検討 (日本電子) ○向坂真一, 佐藤貴弥
- III-2 複合劣化促進システムを用いたシリコン塗膜の劣化評価 (大日本塗料, 島津製作所, 島津テクノリサーチ, 群馬大院理工) ○末次晴美, 長谷川雪憲, 松田恵介, 北村顕一, 加藤裕樹, 小田竜太郎, 黒田真一
- III-3 樹脂-金属接合体の接合性能に寄与する界面樹脂構造の分析 (豊田中研) ○米山弘亮, 岸田佳大, 天野久美, 坂倉夏, 金城友之, 山口聡, 木村英彦, 梅本和彦
- III-4 水中微粒子捕集装置の開発と熱分解 GC/MS を用いた性能評価 (2) 石英ろ紙による水中微粒子の捕集検討 (フロンティア・ラボ, 東北大, 中部大) ○石村敬久, 松枝真依, 丹羽誠, 渡辺壺, 寺前紀夫, 石田康行, 渡辺忠一
- III-5 リサイクルプラスチック中における他種プラスチック混入評価法の開発 (日本ウォーターズ) ○江崎達哉, 風見輝, 小西泰二
- III-6 紫外線硬化材料の包括的分析と解析③ 分子組成および熱物性による力学特性の予測 (パーキンエルマー, 日本ウォーターズ, プルカー・ジャパン, ネット・ジャパン, トヨタ自動車, 池田理化) ○新居田恭弘, 倉橋聡実, 江崎達

- 哉, 足立真理子, 神津知己, 中山悠, 塚本修, 佐伯一帆, 加藤栄治
- III-7 大気浮遊粉塵中マイクロプラスチックの経時的キャラクタリゼーション(明治大院理工, 明治大理工)○白田ひびき, 猪瀬聡史, 本多貴之, 小池裕也
- III-8 硬化後エポキシ樹脂の分解分析(東レリサーチセンター)○島岡千喜
- III-9 ポリブタジエン及びポリイソブレンとシランカップリング剤の反応解析(名工大理工, 住友ゴム)○中植巧麻, 飯國良規, 北川慎也, 吉谷美緒, 堀江美記, 北浦健大
- III-10 DMA-MS system の開発(ネッチ・ジャパン)○仲小路理史, 佐藤健太
- III-11 フィルター KMD 法と EGA-TOFMS によるポリマーブレンドの界面—物性相関の解明(産総研)○渡邊亮太, 小澤大樹, 岸真弓, 中村清香
- III-12 時間依存赤外分光法による MPC 共重合体の水和構造分析(阪電通大工)○山崎翔哉, 森田成昭
- III-13 樹脂添加剤分析における転写サンプリングの効果(浜松ホトニクス, 京セラ)○池田貴将, 金田恭介, 中西将太
- III-14 顕微ラマン分光法を用いたガラス繊維強化ポリプロピレンの熱劣化過程で生じる構造解析(滋賀県立大, 日本電気硝子)○木田拓充, 竹下宏樹, 徳満勝久, 山中真夕, 青井裕資, 杉山基美
- III-15 イオン液体を溶媒として用い合成したセルロースアセテートの置換基分布ならびに置換度分布解析(工学院大)○川井忠智, 小西雅浩, 松田靖弘
- III-16 高感度 GC-TOFMS によるバージン材, リサイクル材およびバイオマスプラスチックから発生するにおいの詳細比較解析(LECO ジャパン)○樺島文恵, 中谷大地, 櫻井昌文
- III-17 適用性を拡大する新しい発生ガス/熱脱着/熱分解装置の開発(フロンティア・ラボ, 東北大)○渡辺竜, 宗像和則, 松枝真依, 丹羽誠, 寺前紀夫, 渡辺忠一
- III-18 TG-NMF-KMD を用いたセルロースナノファイバー強化樹脂の熱酸化劣化の定量解析(産総研)○小澤大樹, 大石晃広, 武仲能子, 渡邊亮太
- III-19 サブミクロン顕微赤外分光法(O-PTIR)と AFM サンプリングによる微小異物の新規高感度赤外分析(日本サーマル・コンサルティング)○馬殿直樹
- III-20 レーザーアブレーション—近接コロナ放電イオン化 MS による高分子表面の添加剤のイメージング(CELESTIA SPECTRA, データオフィスハウノキ, バイオクロマト)○中谷善昌, 朴木野理子, 山下藍, 島田治男
- III-21 パルス NMR の MQ 法を用いたポリマーの高次構造解析(DIC)○松尾真俊, 雨宮晶子, 草野大輔
- III-22 熱分解-GC-MS/FPD 同時分析システムを用いたタイヤゴム中微量加硫促進剤の解析手法の検討(島津製作所)○工藤恭彦, 宮本彩加, 青山佳弘, 北野理基, 近藤友明
- III-23 GC-TOFMS スペクトル解析における機械学習手法の高度化と応用(日本電子)○久保歩, 窪田梓, 生方正章
- III-24 光音響型赤外分光を用いた高分子材料評価法の開発(日立製作所, 日立ハイテクアナリシス)○池田悠太, 木下勝治, 岩佐真行, 坂井範昭, 中尾上歩
- III-25 反応熱分解 GC/MS による大気粉塵中の PET および PC の定量分析: 手法開発と性能評価(徳島大院理工, 徳島大薬, フロンティア・ラボ)○小川智也, 竹田大登, 竹内政樹, 木下京輔, 前川大河, 高柳俊夫, 寺前紀夫, 渡辺竜, 渡辺忠一, 水口仁志
- III-26 高機能性繊維の結晶構造とその引張特性の相関評価(豊田中研)○古賀智之, 安孫子勝寿, 國友晃, 重光望, 森下卓也

ポスター講演および発表 IV

- IV-1 トリプル四重極 GC/MS を用いた Py-GC/MS/MS によるマトリックス共存下における微量分析法の検討(アジレント・テクノロジー)○穂坂明彦, 高桑裕史, 中村貞夫
- IV-2 紫外線硬化材料の包括的分析と解析④ ラマンイメージングによる分子構造分布可視化とマルチモーダルアプローチ(ブルカー・ジャパン, 日本ウォーターズ, パーキンエルマー, ネッチ・ジャパン, トヨタ自動車, 池田理化)○足立真理子, 神津知己, 倉橋聡実, 江崎達哉, 新居田恭弘, 中山悠, 塚本修, 佐伯一帆, 加藤栄治
- IV-3 Ru 触媒を用いたアルキルスルホン酸の重水素化と洗剤中界面活性剤の定量への応用(中部大学, アイセロ)○前出智貴, 加藤ほの夏, 深川匠臣, 堤内要
- IV-4 リサイクルプラスチックにおける金属不純物の定量的評価: XRF と ICP-OES の比較検討(日立ハイテクアナリシス)○夏井克巳, 中尾上歩, 深井隆行, 水谷達也, 岩佐真行
- IV-5 m/z 補正機能を備えた混合物 MS スペクトルの視覚化解析ツールの開発と応用(データオフィスハウノキ, バイオクロマト, CELESTIA SPECTRA)○朴木野理子, 山下藍, 島田治男, 中谷善昌
- IV-6 溶剤系コアシェル分散体の高次構造解析(DIC)○浜田亮太, 尾形美澄, 堀田康伸, 山口潤也, 寺野尚子, 草野大輔
- IV-7 熱分解 GC-MS による廃プラスチック組成成分分析の検討(テクノ中部)○近藤博信
- IV-8 Py-GC/MS による気相誘導体化を用いた PET 熱分解生成物のインライン分析(東北大院環, 東北大院工)○山内涼太郎, 熊谷将吾, Borjigin Siqingaowa, Phanthong Patchiya, 齋藤優子, 吉岡敏明
- IV-9 NMR による PEEK 樹脂の酸劣化構造解析(東ソー分析センター)○松藤高明, 早川万葉, 大杉紳也, 雨宮昇汰, 丹羽浩
- IV-10 高温 GPC 用蒸発光散乱検出器(HT-ELSD)の技術紹介(エーエムアール, Agilent Technologies LDA UK)○鈴木章浩, Steve O'Donohue
- IV-11 ホットメルト接着剤における接着強度を支配する結晶性および界面構造の評価(豊田中研)○北住幸介, 光岡拓哉, 岩井美奈, 安孫子勝寿
- IV-12 市販 GC-MS 用アタッチメント: ダイレクト MS と GC/MS 分析に対応する分子イオン計測用 IA イオン源ユニットの開発(神戸工業試験場, 東大新領域, 横浜国大院環境情報, 産総研)○三島有二, 斎藤元明, 戸野倉賢一, 藤井麻樹子, 津越敬寿
- IV-13 ポリプロピレン樹脂材料の紫外線劣化に伴う特性変化の多角的評価(クリアライズ)○鈴木哲也, 山本隆久, 伊藤浩平, 金堂恵美
- IV-14 三元系グラジエント NPLC および SEC-ESI-MS を用いたポリ乳酸ポリグリコール酸共重合体の構造解析(三菱ケミカル, アムステルダム大学)○芹澤昌史
- IV-15 XAFS による樹脂/Si 基板界面におけるシランカップリング剤の結合状態解析(住ベリサーチ, 住友ベークライト)○岡本隆志, 古市健太郎, 馬路哲, 岡本健太, 首藤靖幸, 権藤聡
- IV-16 微小気泡内包ガス評価手法(日東分析センター)○佐々木胡桃
- IV-17 光音響赤外分光法による PHBH フィルム海洋生分解残渣の構造解析(産総研, 製品評価技術基盤機構, 静岡県環境衛生科学研究所)○金山直樹, 高原宣子, 日高皓平, 三浦隆匡, 綿野哲寛, 萩原英昭, 新澤英之
- IV-18 熱分析による PTFE-NaCl メカノケミカルプロセス解析(東京科学大, 東北大, 京都大)○西村祥吾, Li Yao, 仙波祐太, 平野翔, 大貫友椰, 火原彰秀, 長谷川健,

加納純也

IV-19 含硫黄吸着剤への貴金属吸着メカニズムの解明 (DIC) ○林菜月, 伊藤翔, 吉村巧己, 渡邊泰子, 藤野理香, 牧博志, 仲村仁浩

IV-20 水熱分解反応を前処理として用いるポリカーボネート分析の基礎検討 (徳島大院理工) ○熊谷壮次郎, 坂本萌々子, 細見彩恵, 吉田健, 水口仁志

IV-21 多成分系廃材 ASR のマテリアル組成解析手法の検討 (東レリサーチセンター) ○廣田信広, 日下田成, 塩路浩隆, 松田景子

IV-22 高分子の熱分解生成物の包括的な解析手法開発と共重合体の構造解析への応用 (名工大理工) ○森雄太, 山本広大, 伊藤宏, 飯國良規, 大谷肇, 北川慎也

IV-23 NMR と LC/MS を用いた樹脂変色要因の総合分析 (東洋紡) ○藤井大輝

IV-24 ダブルショット熱分解法を用いたポリマー試料中の微量 PTFE の分析における定量性の改善 (フロンティア・ラボ, 東北大) ○塩野愛, 丹羽誠, 渡辺壺, 寺前紀夫, 田中周平, 渡辺忠一

IV-25 AFM-IR と化学力顕微鏡による表面官能基のナノスケール分析 (産総研, 北大電子科学研, 神戸大工) ○藤田康彦, 熊谷怜士, 高橋万里子, 鈴木望, 平井健二, 渡邊宏臣, 雲林院宏

IV-26 多層塗膜における各層分析試料採取のための樹脂分解手法の検討 (明大院理工, 明大理工) ○壺内幹太, 本多貴之

IV-27 紫外線硬化材料の包括的分析と解析⑤〜3D X 線顕微鏡の活用〜 (ブルカー・ジャパン, 日本ウォーターズ, パーキンエルマー, ネット・ジャパン, トヨタ自動車, 池田理化) ○中山悠, 足立真理子, 神津知己, 倉橋聡実, 江崎達哉, 新居田恭弘, 塚本修, 佐伯一帆, 加藤栄治, 箕輪直子

本プログラムは今現在の予定であり, 最終的に変更が生じる場合もあります。

第 413 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー (LC) 研究懇談会

後援 (公社)日本化学会, (公社)日本農芸化学会, (公社)日本分析化学会 (薬学会は許諾後)

HPLC, LC/MS は環境, 食品, 医薬品, 材料など, さまざまな分野の分析で幅広く活用されている手法です。目的を達成するためには, 基礎知識を習得することは必要不可欠です。本例会では, HPLC, LC/MS に用いる装置, カラム, 水, 試薬などに関する, 基礎から, 昨今の事例を含めた応用例までご講演いただきます。ぜひこの機会にご参加いただき, 皆様のご活躍の一助としていただければ幸いです。

期日 2025 年 11 月 21 日 (金) 13.00~17.00

会場 (株)日立ハイテクアナリシス サイエンスソリューションラボ東京 [東京都中央区新富 2-15-5 RBM 築地ビル, 交通: 東京メトロ有楽町線「新富町」駅より徒歩 1 分 (5 番出口利用), 東京メトロ日比谷線「築地」駅より徒歩 4 分 (4 番出口利用), JR 京葉線, 東京メトロ日比谷線「八丁堀」駅より徒歩 8 分 (A3 出口利用)]

<https://www.google.com/maps/search/?api=1&query=35.671216%2C139.775152>

講演主題 HPLC, LC/MS の基礎と応用

講演

講演主題概説 (オーガナイザー) (13.00~13.05)

(関東化学(株) 坂本和則)

1. HPLC, LC/MS に用いる試薬・溶媒の基礎と最新トピックス (13.05~13.35)

(関東化学(株) 坂本和則
(LC 分析士二段)

2. 前処理の基礎と固相抽出の使用法 (13.35~14.10)

(ジーエルサイエンス(株) 太田茂徳
(LC 分析士二段)

3. C18 カラムの基礎とオリゴ核酸の不純物分析への応用 (14.10~14.45)

((一財)化学物質評価研究機構) 坂牧 寛
(LC 分析士三段, LC/MS 分析士初段)

休憩 (14.45~15.05)

4. 高速液体クロマトグラフィーの検出器選定の基本と最新トピックス (15.05~15.40)

(株)島津製作所) 内田あずさ
(LC 分析士二段)

5. LC/MS, LC/MS/MS により得られるマススペクトル解析の基礎と応用 (15.40~16.25)

(浜松医科大学/エムエス・ソリューションズ(株)/(株)ブレッパーズ) 高橋 豊
(LC 分析士二段, LC/MS 分析士五段)

6. 総括「HPLC, LC/MS の基礎と応用」(16.25~17.00)

(東京理科大学) 中村 洋
(LC マイスター, LC/MS マイスター)

参加費 ①学生: 1,000 円, ② LC 懇・個人会員: 2,000 円, ③ LC 懇・団体会員: 3,000 円, ④後援学会・個人会員: 4,000 円, ⑤後援学会・団体会員: 4,500 円, ⑥その他: 5,000 円. 参加申込締切後の受付はできませんので, ご了承ください。

情報交換会 終了後, 講師を囲んで情報交換会を開催します (会費 5,000 円). 参加申込締切後のご参加はできませんので, 参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

参加申込および参加費等納入締切日

2025 年 11 月 14 日 (金) (入金締切時刻: 15 時まで)

申込方法

1. 参加希望者は, 下記申込先にアクセスし, 氏名, 勤務先 (電話番号), LC 研究懇談会・個人会員, 協賛学会・個人会員, その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ, お申し込みください。なお, 参加者名と振込者名が違う場合は, 参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。

2. お申込みが完了した場合には, 登録されたアドレス欄に「第 413 回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付 (自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は, ①入力したご自分のアドレスに間違いがないか, ②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ, 世話人までお問い合わせください。

3. 申込み受付のメールを受領後, 必ず期限内に研究懇談会参加費, 情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合, お申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので, 十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお, いったん納入された参加費は, 返金いたしません。

4. 参加費の納入が確認できた方には, 2025 年 11 月 15 日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。また, 請求書の発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会 (例会) 参加費送金時のご注意

例会参加費, 情報交換会費を送金される場合, 下記を禁止しておりますので, ご理解のほどよろしくお願いいたします。

- 複数例会の参加費の同時振込 (→例会ごとに振り込んでください)
- 複数参加者の参加費の同時振込

(→参加者ごとに振り込んでください)

3. 年会費や他の費用との合算振込

(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/BnlyMortsRzTyGna7>

(学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)1754341、口座名義:シヤ)ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合先 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 関東化学(株) 坂本和則
[E-mail: sakamoto-kazunori@kanto.co.jp]

第393回ガスクロマトグラフィー 研究懇談会講演会

主催 (公社)日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会

期日 2025年11月26日(金)

会場 北とびあ13階飛鳥ホール〔東京都北区王子1-11-1、交通:JR京浜東北線「王子」駅徒歩5分〕

(<https://www.hokutopia.jp/access/>)

講演主題 匂い香分析の最先端

参加費(要旨集代込み) GC研究懇談会会員・学生:2,000円、GC研究懇談会会員外:5,000円

参加申込期限 2025年11月19日(水)

詳細はガスクロマトグラフィー研究懇談会のホームページをご覧ください、

<http://www.jsac.or.jp/~gc/>

LC- & LC/MS-DAYS 2025

～自己研鑽・公的資格取得・ヒューマンネットワーク

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会

後援 (公社)日本化学会、(公社)日本農芸化学会、(公社)日本分析化学会、(公社)日本薬学会、分析士会、LCシニアクラブ

高速液体クロマトグラフィー(HPLC)および高速液体クロマトグラフィー質量分析(LC/MS)は汎用分離分析法として分野を問わず活用され、新しいユーザーが絶え間なく誕生しています。HPLCおよびLC/MSの初心者・中級者にとっては一日も早く関連技術を習得することが求められていますが、現場ではさまざまなトラブルに遭遇し、その解決に苦勞することも稀ではありません。一方、分析値信頼性確保への社会的な高まりに応えるため、(公社)日本分析化学会は分析士資格認証制度を2010年度から創設して液体クロマトグラフィー(LC)分析士試験を実施し、2011年度からLC/MS分析士試験、2012年度からイオンクロマトグラフィー(IC)分析士試験をそれぞれ継続して実施しています。2023年までに分析士として登録された方は、3,000名を超えており、分析士認証制度の認知度と我が国の産業界への貢献は増大の一途です。

そこで、LC研究懇談会ではHPLC、LC/MSならびに関連技術に関する専門家の養成を目指し、参加者の基礎知識習得と分析士資格等の公的資格取得に資するため、「**自己研鑽・公的資格取得・ヒューマンネットワーク**」を2025年のメインテーマに掲げました。この研修会では、技術者・研究者・メーカー・ユーザーが一体となり、基礎から最前線までを泊り込みで勉強します。また、ミッドナイトセッションでは分離科学的な専門知識に加え、人と人との絆を改めて考える切っ掛けとし

て、ヒューマンネットワークの構築についても学ぶ機会を設けますので、奮ってご参加ください。なお、本研修会終了後の、①2025年度LC分析士初段認証試験の筆記試験を免除する試験、②2025年度LC/MS分析士初段認証試験の筆記試験を免除する試験(①②は同時刻実施、無料)に合格されますと、当該分析士初段認証試験の筆記試験が免除される特典があります(初段登録時には正規の受験料と登録料が必要です)。

会期 2025年12月4日(木)・5日(金)

会場 東レ総合研修センター〔静岡県三島市末広町21-9、電話:055-980-0333、FAX:055-980-0350、交通:JR「三島」駅北口下車から徒歩15分〕

<https://www.toray.co.jp>

プログラム

12.30～13.00 受付

総合司会:井上剛史(北浜製作所)

1日目(12月4日)

13.00～13.05 実行委員長・開会挨拶

(東京理科大学)中村 洋

13.05～13.10 現地世話人挨拶

(LCシニアクラブ)熊谷浩樹

13.10～13.15 共同現地世話人挨拶

(東レリサーチセンター)竹澤正明

基調講演

13.15～13.45 (座長:熊谷浩樹)

S0-1 自己研鑽・公的資格取得・ヒューマンネットワーク
(東京理科大学)中村 洋

第1部 HPLCとLC/MSにおける前処理(主任:岡橋美貴子)

13.45～14.00 (座長:岡橋美貴子)

S1-1 水の重要性

(メルク)石井直恵

14.00～14.15 (座長:石井直恵)

S1-2 試薬・溶媒の選択

(関東化学)坂本和則

14.15～14.30 (座長:坂本和則)

S1-3 固相抽出の使い方

(日立ハイテクアナリシス)清水克敏

14.30～14.45 (座長:清水克敏)

S1-4 カラムスイッチングの活用

(LCシニアクラブ)熊谷浩樹

14.45～15.00 (座長:清水克敏)

S1-5 2D-LCを使いこなす

(LCシニアクラブ)熊谷浩樹

15.00～15.15 コーヒーブレイク

15.15～15.30 (座長:熊谷浩樹)

S1-6 超臨界流体抽出の長所

(島津製作所)寺田英敏

15.30～15.45 (座長:寺田英敏)

S1-7 溶媒抽出のポイント

(臨床検査基準測定機構)岡橋美貴子

15.45～16.00 (座長:寺田英敏)

S1-8 除タンパクの原理

(臨床検査基準測定機構)岡橋美貴子

第2部 ヒューマンネットワークの本質を知る(主任:熊谷浩樹)

16.00～16.15 (座長:岡橋美貴子)

S2-9 社会人のヒューマンネットワーク

(北浜製作所)井上剛史

16.15～16.30 (座長:井上剛史)

S2-10 内資系企業人のヒューマンネットワーク

(太田胃散)濱崎保則

16.30～16.45 (座長:濱崎保則)

S2-11 外資系企業人のヒューマンネットワーク

(LCシニアクラブ)熊谷浩樹

16.45～17.00 (座長:熊谷浩樹)
 S2-13 館内施設説明&部屋割り
 (東レリサーチセンター) 竹澤正明
 17.00 チェックイン (個室)・入浴
 17.40～18.00 景品仕分け (寺田英敏, 坂本和則)
 18.00～20.00 夕食・情報交流会
 ・司会 (榎本幹司)
 ・じゃんけん大会 (高橋 豊)
 20.15～20.30 会場セットアップ (清水克敏, 坂牧 寛)
 20.30 ミッドナイトセッション (4グループに分かれて
 討論)
 ①前処理&生体試料, ②分離&カラム, ③検出& LC/MS,
 ④ヒューマンネットワーク
 2日目 (12月5日)
 7.30～8.30 朝食
 第3部 カラム分離の本質 (主任:長江徳和)
 8.30～8.45 (座長:竹澤正明)
 S3-14 逆相クロマトグラフィー
 (CERI) 坂牧 寛
 8.45～9.00 (座長:坂牧 寛)
 S3-15 HILIC
 (クロマニックテクノロジー) 長江徳和
 9.00～9.15 (座長:長江徳和)
 S3-16 イオン交換クロマトグラフィー
 (日立ハイテクアナリシス) 清水克敏
 9.15～9.30 (座長:清水克敏)
 S3-17 サイズ排除クロマトグラフィー
 (三菱ケミカル) 前中佑太
 9.30～9.45 (座長:前中佑太)
 S3-18 イオンクロマトグラフィー
 (東ソー) 伊藤誠治
 9.45～10.00 (座長:伊藤誠治)
 S3-19 マルチモードクロマトグラフィー
 (島津製作所) 寺田英敏
 10.00～10.15 (座長:寺田英敏)
 S3-20 キラルクロマトグラフィー
 (北浜製作所) 井上剛史
 10.15～10.30 (座長:井上剛史)
 S3-21 超臨界流体クロマトグラフィー
 (島津製作所) 寺田英敏
 10.30～10.45 コーヒーブレイク
 第4部 検出の本質 (主任:三上博久)
 10.45～11.00 (座長:寺田英敏)
 S4-22 示差屈折率検出
 (島津総合サービス) 三上博久
 11.00～11.15 (座長:三上博久)
 S4-23 吸光光度検出
 (北浜製作所) 井上剛史
 11.15～11.30 (座長:井上剛史)
 S4-24 蛍光検出
 (島津総合サービス) 三上博久
 11.30～11.45 (座長:三上博久)
 S4-25 電気伝導度検出
 (東ソー) 伊藤誠治
 11.45～12.00 (座長:伊藤誠治)
 S4-26 蒸発光散乱検出
 (島津総合サービス) 三上博久
 12.00～12.15 (座長:三上博久)
 S4-27 ICP 検出
 (フジクラ) 市川進矢
 12.15～13.00 昼食・記念撮影
 第5部 LC/MSの本質 (主任:高橋 豊)
 13.00～13.15 (座長:市川進矢)

S5-28 ESI
 (プレッパーズ/エムエス・ソリューションズ) 高橋 豊
 13.15～13.30 (座長:高橋 豊)
 S5-29 APCI
 (日本食品検査) 橋田 規
 13.30～13.45 (座長:高橋 豊)
 S5-30 QMS
 (日本食品検査) 橋田 規
 13.45～14.00 (座長:橋田 規)
 S5-31 TOF-MS
 (プレッパーズ/エムエス・ソリューションズ) 高橋 豊
 14.00～14.15 (座長:高橋 豊)
 S5-32 MS/MS
 (東レリサーチセンター) 竹澤正明
 第6部 実試料分析の本質 (主任:竹澤正明)
 14.15～14.30 (座長:竹澤正明)
 S6-33 生体成分分析
 (臨床検査基準測定機構) 岡橋美貴子
 14.30～14.45 (座長:岡橋美貴子)
 S6-34 アミノ酸分析
 (味の素) 大貫隆史
 14.45～15.00 コーヒーブレイク
 15.00～15.15 (座長:大貫隆史)
 S6-35 PFAS 分析
 (栗田工業) 榎本幹司
 15.15～15.30 (座長:榎本幹司)
 S6-36 食品分析
 (日本食品検査) 橋田 規
 15.30～15.45 (座長:橋田 規)
 S6-37 生薬分析
 (太田胃散) 濱崎保則
 15.45～16.00 (座長:濱崎保則)
 S6-38 化粧品分析
 (花王) 奥田愛未
 16.00～16.15 (座長:奥田愛未)
 S6-39 委託分析
 (東レリサーチセンター) 竹澤正明
 16.15～16.30 (座長:竹澤正明)
 S6-40 人物分析
 (東京理科大学) 中村 洋
 16.30～16.35 実行委員長・閉会挨拶 (東京理科大学)
 中村 洋
 16.50～17.20 (認証専門委員:中村 洋, 三上博久)
 修了試験 4択式で10問. マークシートに解答. 無料.
 ①2025年度LC分析士初段認証試験筆記試験免除試験
 ②2025年度LC/MS分析士初段認証試験筆記試験免除
 試験
参加費 30,000円 (税込み10%). 領収書はインボイス制度対
 応小委員会が適宜発行しますが (E-mail: k.enomoto15@
 kurita-water.com), 請求書の発行はいたしておりません.
参加申込方法 ①参加者氏名, ②連絡先 (メールアドレス, 所
 属, 住所, 電話番号, E-メール, ③オーバーナイトセッショ
 ンで討論したい (聴いてみたい) テーマ, ④上記修了試験受
 験希望の有無 (希望者はLCかLC/MSかの区分を記載. 受
 験予定者は2B以上の黒鉛筆と消しゴムを持参) を明記し,
 下記参加申込先 URL にお申し込みください.
参加申込先 <https://forms.gle/fysG9H5Qf716m4Pa7>
参加申込締切 11月20日 (木) 入金締切時刻15時
銀行送金先 りそな銀行五反田支店 (普通) 1754341, 口座名
 義: シヤ) ニホンブンセキカガクカイ [(公社)日本分析化学
 会・液体クロマトグラフィー研究懇談会]
服装に関する注意事項 研修期間中は軽装で結構ですが, ト
 レーニングウェア, Gパン, 短パン, サングル, 襟のない

シャツ、ヒールの高い靴はご遠慮ください。

問合せ 研修会実行委員長 中村 洋

[E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

なお、開催日が近付きましたら、LC 研究懇談会のホームページ (<http://www.lckon.html>) をご覧ください。

第4回 LC シニアクラブ参加者募集

主催 LC シニアクラブ

協賛 LC 研究懇談会

後援 分析士会

LC シニアクラブ (LCSCCL) は、(公社)日本分析化学会・LC 研究懇談会のシニア役員を中核とし、LC や LC/MS をはじめ、さまざまな技術や手法の開発・改良、技術を継承する人財の発掘・育成・組織化などの戦略を自由な発想に基づいて俯瞰的な立場から提案するための頭脳集団です。今回も昨年に続き、LC 研究懇談会が主催する LC- & LC/MS-DAYS 2025 にリンクし、その終了直後から同じ研修センターで第4回会合を開きます。参加資格は特にはありませんので、ご興味をお持ちの方は奮ってご参加ください。

日時

第1部：2025年12月5日（金）18時～20時

第2部～第5部：12月6日（土）10時～16時

会場

①第1部～第4部：東レ総合研修センター〔静岡県三島市末広町21-9、電話：055-980-0333、FAX：055-980-0350、交通：JR「三島」駅北口下車から徒歩15分〕
<https://www.toray.co.jp/aboutus/network/headoffice.html#anc4>

②第5部：JR「三島」駅付近の名所探訪

プログラム

進行：現地世話人・竹澤正明（東レリサーチセンター）

第1部 情報交換会（12月5日、18.00～20.00）

1) 挨拶：LC シニアクラブ会長・中村 洋（東京理科大学・名誉教授）

2) 自己紹介と歓談：全参加者

第2部 2025年度総会（12月6日、9.30～10.10）

1) 報告事項（事業報告、新規入会者、等）

2) 承認事項（事業計画案、定款改定、次期役員と分担、等）

第3部 講演・話題提供（10.15～11.15、座長：三上博久）

カラム溶出後、その後の人生の巻

（元株日立ハイテクノロジーズ）谷川建一

第4部 アルコール・ランチ放談会「LC 研究懇談会、分析士会、人財育成、ヒューマンネットワーク、新規事業、新技術開発など」（11.40～13.00）

第5部 三島市内観光（楽寿園見学、三嶋大社参拝など）
（三島駅で16時解散）

参加費 20,000 円（税込み10%）

参加申込方法 下記の申込先 URL から氏名・（元）所属、メールアドレス、電話番号、生年月日を記入してお申し込みください。

参加申込先

<https://forms.gle/sPdFji1Shdb5WarW8>

銀行送金先 りそな銀行五反田支店（普通）1754341、口座名義：シヤ）ニホンブンセキカガクカイ〔(公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

申込締切 11月21日（金）入金締切時刻15時

問合せ E-mail: nakamura@jsac.or.jp

第31回 LC & LC/MS テクノプラザ

～講演・展示募集と参加申込～

主催 (公社)日本分析化学会・LC 研究懇談会

共催 LC シニアクラブ

後援 (公社)日本分析化学会、(公社)日本化学会、(公社)日本農芸化学会、(公社)日本薬学会（申請後掲載）

LC および LC/MS を日常的に利用しているオペレーター、技術者の方々の情報交換、問題解決・相互交流の場として、標記テクノプラザを開催します。本プラザの特色は、従来の機器・カタログ展示や一般講演に加え、現場の共通の悩みをその都度「集中テーマ」として取り上げ、実例を材料として具体的に議論することです。問題を解決できた例、問題提起の段階でとどまっている例、これから問題になりそうな事柄などが、いずれも「集中テーマ」の対象になります。この会の主要な目的の一つは、発表していただいた個々の問題を参加者全体の共通の認識にすることにあります。したがって、未解決の問題や失敗例でも一向に構いません。役に立つ情報であれば、いわゆるオリジナリティーには必ずしもこだわられません。なお、本テクノプラザの講演者は、次年度の「液体クロマトグラフィー努力賞」の審査対象となります。

会期 2026年2月18日（水）・19日（木）

会場 北とぴあ・ペガサスホール（15F）〔東京都北区王子1-11-1、電話：03-5390-1100、交通：①JR 京浜東北線「王子」駅北口より徒歩2分、②地下鉄南北線「王子」駅下車5番出口直結、③都電荒川線「王子駅前」駅より徒歩5分。〕

URL: <https://www.hokutopia.jp/>

情報交換会：北とぴあ・レストラン VIEW & KITCHEN QUAD17（17階）

A 講演募集

A-1 発表形式 口頭発表及びポスター発表（横幅90 cm × 高さ180 cm）

A-2 講演募集分類 ①集中テーマ：(A) 前処理における諸問題、(B) 分離における諸問題、(C) 検出・データ解析における諸問題、(D) 未解決の諸問題、教訓的失敗例、②一般テーマ。

A-3 講演申込先 LC 懇のホームページから、1演題ごとに下記 URL に必要事項を明記してください。

講演申込 URL

<https://forms.gle/nK4NkfbEDq4rFjyM8>

（この URL からの参加申込はできません）

A-4 講演申込締切 12月26日（金）

A-5 講演要旨締切 1月30日（金）

A-6 講演要旨執筆要領

- 日本語は MS 明朝、英数字は Century で入力。
- A4 判白紙を縦に使用し、横 17 cm、縦 25 cm の枠内（標準は 1 行 38 字、1 枚 38 行）にワープロで 1～2 枚作成してください。要旨集は A4 判で作製します。
- 講演番号記入（14 ポイント）欄として、1 枚目の左上隅（左 8 字 × 4 行分）は空白としてください。
- 講演題目（強調 14 ポイント）を書き、1 行空けて発表者の所属と氏名を書く（強調 12 ポイント）。所属はカッコ内にまとめ、氏名にはふりがなを、また発表者の氏名の前には○印をつけてください。
- 所属・氏名の下を 1 行空けて、目的、実験、結果、考察などに分けて本文（10.5 ポイント）を書いてください。
- 2 枚目は最上段から書いてください。

A-7 講演要旨提出先 Word 版と PDF 版を電子メール（nakamura@jsac.or.jp）に添付してください。

B 展示募集

B-1 機器・カタログ展示 横幅 180 cm、奥行き 60 cm、高

さ 91 cm の台を使用します。1 小間につき、機器展示は 30,000 円、カタログ・書籍展示は 10,000 円。展示ご希望の方は、①希望する展示の種類、②申込小間数、③連絡先（電話）を明記し、12 月 26 日（金）までにお申し込みください。なお、展示申込は先着順に受付け、満小間になり次第締切ります。

B-2 展示申込先 URL

<https://forms.gle/ein5J41ZPBwdMNNf8>

B-3 展示者も参加登録が必要です。

C 参加申込

C-1 参加登録費 一般 6,000 円、学生 3,000 円。

C-2 情報交換会 2 月 18 日（水）17 時 30 分より（参加費 5,000 円）

C-3 参加申込先 プログラムは編成が終わり次第、LC 懇ホームページに掲載しますので、下記 URL より参加登録申込、情報交換会参加申込をしてください。

参加申込 URL

<https://forms.gle/qu4SjcS3HjsmlaZUA>

C-4 参加申込締切日 2 月 9 日（月）（入金締切時刻：15 時まで）

C-5 銀行送金先 りそな銀行五反田支店（普通）0802349、口座名義：シヤ）ニホンブンセキカガクカイ〔（公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

主催者提供講演

① 2025 年度委員長特賞受賞講演

- ・ネットバンキングによる会計業務の効率化遂行（LC シニアクラブ）熊谷浩樹
- ・源泉徴収の取り纏め等における LC 懇会計への法的貢献（西岡技術士事務所）西岡亮太

② 啓育講演

- ・啓育の勧め（東京理科大学）中村 洋

上記の講演に加え、2025 年度 CERI クロマトグラフィー分析賞受賞講演、2026 年 LC 努力賞受賞講演、2025 年 LC 科学遺産認定講演、2025 年度啓育指導賞受賞講演、2024 年ベストオーガナイザー賞表彰、第 30 回テクノプラザベストプレゼンテーション賞表彰などの各受賞講演・表彰なども予定されております。

問合先 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号（公社）日本分析化学会 液体クロマトグラフィー研究懇談会 第 31 回 LC & LC/MS テクノプラザ実行委員長 中村 洋〔E-mail：nakamura@jsac.or.jp〕

——以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

粉末・多結晶の X 線解析講習会

～最新の研究事例から学ぶ実践的アプローチ～

主催（一社）日本結晶学会

期日 2025 年 10 月 15 日（水）

会場 大阪公立大学 I-site なんば

ホームページ

<https://crsj.jp/news/2025/250804xrd.html>

連絡先 〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1 B5 棟

2A-09 大阪公立大学工学研究科 笠井秀隆

〔電話：072-254-9509, E-mail：kasai.hidetaka@omu.ac.jp〕

**第 50 回レーザ顕微鏡研究会・
第 23 回医用分光光学研究会
合同研究会**

主催 レーザ顕微鏡研究会・医用分光光学研究会

期日 2025 年 10 月 23 日（木）～25 日（土）

会場 札幌市教育文化会館

ホームページ

<https://www.ist.hokudai.ac.jp/labo/bmsys/jslm&medsp/>

連絡先 〒060-0814 北海道札幌市北区北 14 条西 9 丁目

北海道大学大学院情報科学研究院 生命人間情報科学部門

佐藤宏子〔電話：011-706-7219, E-mail：slm.medspc@ist.hokudai.ac.jp〕

25-1 高分子表面研究会

高分子表面・界面のみえる化最前線

主催 高分子学会高分子表面研究会

期日 2025 年 10 月 24 日（金）

会場 東京理科大学森戸記念館第 1 フォーラム

ホームページ <https://member.spsj.or.jp/event/>

連絡先 〒104-0042 東京都中央区入船 3-10-9 新富町ビ

ル 6 階（公社）高分子学会 事業課 堀井美恵子

〔電話：03-5540-3771, E-mail：jigyo@spsj.or.jp〕

電気化学セミナー C

「電気化学界面における計測・評価技術の最前線」

主催（公社）電気化学会

期日 2025 年 11 月 6 日（木）

会場 オンライン・オンラインハイブリッドセミナー（オンライン会場：東京理科大学神楽坂キャンパス 1 号館 17 階記念講堂（Zoom による同時配信を行います））

ホームページ

<https://www.electrochem.jp/seminar/>

連絡先 〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-1-6 日本弘

道会ビル 7F（公社）電気化学会 事務局 原優美子

〔電話：03-3234-4213, E-mail：seminar@electrochem.jp〕

2025 年度公益社団法人 日本金属学会関東支部講習会 『腐食・防食の基礎と最前線』

主催 (公社)日本金属学会関東支部
期日 2025 年 11 月 7 日 (金), 14 日 (金), 21 日 (金), 28 日 (金), 12 月 12 日 (金)
会場 オンライン
ホームページ
<https://jimm.jp/event/branch/>
連絡先 〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 南 8 号館 312 号室 (公社)日本金属学会関東支部 事務局 福島 彩
〔電話: 03-5734-3141, E-mail: fukushima.a.9769@m.isct.ac.jp〕

第 308 回ゴム技術シンポジウム 基礎から学ぶゴム分析と最新応用技術

主催 (一社)日本ゴム協会研究部会 分析研究分科会
期日 2025 年 11 月 7 日 (金)
会場 東部ビル 5 階
ホームページ https://www.srij.or.jp/newsite/schedule/view_detail.php?gno=6452&keepThis=true&TB_iframe=true&height=550&width=680
連絡先 〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-26 東部ビル 1 階 (一社)日本ゴム協会 高田顕弘
〔電話: 03-3401-2957, E-mail: kenkyuubukai@srij.or.jp〕

赤外ラマン研究部会セミナー 「振動分光学の研究最前線」

主催 (公社)日本分光学会 赤外ラマン研究部会
期日 2025 年 11 月 28 日 (金) 13 時から 17 時
会場 京都大学化学研究所 共同研究棟大セミナー室
ホームページ
<https://forms.gle/vmcF9HaBMQ2r9Ttr7>
連絡先 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学化学研究所 分子環境解析化学 長谷川健
〔電話: 0774-38-3070, E-mail: htakeshi@scl.kyoto-u.ac.jp〕

VACUUM2025 真空展

主催 (一社)日本真空工業会, (公社)日本表面真空学会, (株)日刊工業新聞社
期日 2025 年 12 月 3 日 (水)~5 日 (金)
会場 東京ビッグサイト
ホームページ
<https://biz.nikkan.co.jp/eve/vacuum/>
連絡先 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町 14-1 日刊工業新聞社 総合事業本部 第一イベント事業部 平井尚美
〔電話: 03-5644-7221, E-mail: autumnfair@nikkan.tech〕

第 40 回分析電子顕微鏡討論会

主催 日本顕微鏡学会 分析電子顕微鏡分科会

期日 2025 年 12 月 4 日 (木)・5 日 (金)
会場 オンライン開催
ホームページ

<https://sites.google.com/view/bunseki-touron-40/>
連絡先 〒060-8628 北海道札幌市北区北 13 条西 8 丁目 北海道大学大学院工学研究院 マルチスケール機能集積研究室 坂口紀史〔電話: 011-706-6768, E-mail: bunseki.touron.40@gmail.com〕

「分析化学」年間特集“波”論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」は、2026 年のテーマを「波」と決定しました。「波」は光の波長と波数を想起させることから、分光分析の基礎および応用についての論文を募集します。

一方で、「波」は直接、海や川の表面に起こる波を連想させます。本特集においては、海洋や河川の表層または岸辺を対象とした環境分析についても論文を募集します。

多くの皆様方からの投稿をお待ちしております。是非この機会をご活用ください。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文原稿締切: 2025 年 11 月 14 日 (金) (第 2 期)

「分析化学」編集委員会特集 “分析化学の次世代を担う若手研究者”の論文募集

「分析化学」編集委員会

2026 年度 (第 75 巻) の「編集委員会特集」のテーマは、日本分析化学会の若手組織である「若手交流会」とのコラボレーション企画として、『分析化学の次世代を担う若手研究者』に決定いたしました。分析化学における若手研究者のアクティビティを示すことを目的として、おおむね 45 歳以下の若手研究者・技術者を筆頭著者とする論文を募集いたします。チャレンジな研究論文、ご自身の研究業績をとりまとめて体系化した総合論文、ある分野の研究動向を総合的・体系的に論じた分析化学総説など、多数の論文の投稿をお待ちしております。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切: 2025 年 10 月 4 日 (金)

特集論文原稿締切: 2025 年 12 月 6 日 (金)

「分析化学」特集 “未来を拓く熱分析”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、熱分析研究懇談会と共同で「未来を拓く熱分析」と題した特集を企画しました。熱分析は、“物質の温度を調節されたプログラムに従って変化させながら、その物質の物理的性質を温度 (または時間) の関数として測定する一連の技法の総称です。適用範囲は、プラスチック、ゴム、セラミックス、金属、鉱物といった材料分野から、食品、製薬などの製品分野、生体・環境・エネルギー分野と多岐にわたり、およそあらゆる物質を対象としています。対象も手法も日々進化しています。本特集号では、広く熱分析が力を発揮した研究論文の投稿をお待ちしています。奮ってご投稿ください。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切: 2026 年 2 月 20 日 (金)

特集論文原稿締切: 2026 年 4 月 17 日 (金)